

2017年ピンクリボンかながわ にて副院長は講演しました。

当院ではエコー検診をおこなっております。
自費診療も行っていますし、ちょっと気になる
症状がある方も女性医師ですので、お気軽に
ご相談ください。

罹患率は40-50歳台がピークですが、
若年、ご高齢の方でも乳がんになる可能性は
あります。

乳がんは早期発見で完治が見込めます！！



長島クリニック

情報誌『ライフライン21 がんの先進医療』にも掲載されました。

特報

「ピンクリボンかながわ in 鎌倉 2017」

「乳がんから身を守る～早期発見・ 早期治療の大切さ～」をテーマに 大船観音寺で開催

監修●土井卓子 医療法人湘和会 湘南記念病院 かまくら乳がんセンター長
取材・文●中島由紀 フリーライター



土井卓子医師

2017年10月7日、神奈川県鎌倉市岡本の大船観音寺において、「ピンクリボンかながわ in 鎌倉2017」が開催された。大船観音のもとで、大切な乳がんを失わないため早期発見・早期治療の啓発を目的とし、鎌倉市、地元企業なども連携し、乳がんの正しい知識を広め、検診の受診率向上をめざした催しである。大船観音寺境内には協賛各社のブースが展開され、本堂ではテーマに沿った講演が医師や技師、保健師によって行われた。最後は乳がん患者の貴重な体験談で締めくくられた。総合同会は湘南記念病院乳がんセンター長・ピンクリボンかながわ代表の土井卓子医師、ユーモアを交えながら、明るく進行し、場内を盛り上げていた。

土井医師ははじめの言葉として、乳がん検診の限界が見えてきたことに言及。それについての対策を考えていく必要性を述べた。治療の明るい未来や、乳がん治療に欠かせないケアについても体験談から聞いていきたいという趣旨を明らかにした。

まず、今検診で話題になっている高濃度乳房についての講演である。高濃度乳房とは、マンモグラフィ上の用語です。マンモグラフィは乳房専用のレントゲン検査になります。40歳以上の女性に対してマンモグラフィ検査を行うことで乳がんの死亡率が減ることが証明されていますので、検査導入されているわけですが、マンモグラフィの基礎的な見方としてレントゲン透過率の高低で白く写るか、黒く写るかが決まります。①高濃度、②不均一高濃度、③乳腺散在、④脂肪性と4つに分類されます。高濃度乳房とはこのうちの①と②に定義されます。白く写る乳腺の割合が多いことが特徴です。③は文字通り、比較的脂肪が目立っていて、乳腺がバラバラと散在している。④では、乳腺は若干残っているようですが、ほとんど脂肪に置き換わっていて真っ黒という感じの状態です。



高濃度乳房とは何かー
湘南記念病院乳がんセンター
長島美貴医師

講演中の長島美貴医師

では、検診にエコーを導入したらどうかということ、日本でも「超音波検査による乳がん検診の有効性を検証する比較試験 J-ISTAR」が行われました。40歳代のマンモグラフィ検査にこの検査を加えることにより、がん発見率が約1.5倍向上することがわかりました。しかし、課題もあります。がん死亡率が低下するはまだ不明、精密検査の必要ではない病変も検出してしまう、さらに技術習得者の確保など体制が整備されていないという点です。このため、まだ検診には導入されていません。最後になりましたが、高濃度乳房は病気ではないということとです。そして検診のときにでも自分の乳房構成を聞いてもいいのではないかと思います。

次いで、登壇したのは、湘南記念病院のブレインと紹介された井上謙一医師である。